

人権メッセージ

希望に満ちたぬくもりのある 社会にしていけるために

新成人の皆様 おめでとうございます。

皆様がこうして成人式を迎えられ、お祝いできることに大きな希望と喜びを感じます。

さて、昨年から世界中で新型コロナウイルス感染症が流行しています。未知の感染症による病の深刻さだけでなく、心の中から生み出される強い不安や恐れとも向き合うことになり、私たちは、過去に経験したことのない一年を過ごしてきました。

しかし、コロナ禍の中でわたしたちは、悲しみや不安、恐れのみと向き合ってきたわけではなく、同時に命の尊さや何気ない日常への感謝の気持ち、お互いに強く繋がりを合わせて進んでいくことの大切さにも気付くことができました。様々なアプリを活用し、リモートでの活動が急速に普及したのも、わたしたちが人と人の繋がりをかけがえないものだと考えてきた証ではないでしょうか。

これから皆様は、新成人として新たな一歩を踏み出されるわけですが、コロナ禍の中で学んだ教訓を忘れず、お互いに思い合う気持ちを大切にしてください。それは、自分の価値観や先入観で決めつけることなく、一人ひとりの思いに心を傾け、じっくり考えてみるということです。あなたが、一人ひとりの気持ちに寄り添えた時、そこには、信頼や絆が生まれ、心地よい関係が築かれていくことと思えます。

これまで過ごしてきたかけがえない時間を大切に、希望に満ちたぬくもりのある社会になるよう、手を取り合っても生きていきましょう。

世界人権宣言 第一条

Universal Declaration of Human Rights
1948年12月10日 第3回国際連合総会で採択

すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

令和3年新成人の集い

式次第

11:00 ● 開式の辞
● オープニングセレモニー

11:05 ● 市長式辞
● 市議会議長祝辞
● 来賓紹介

11:15 ● 新成人による企画
「飛翔」

11:45 ● 閉式の辞

日時 令和3年1月11日 成人の日
11時～

場所 DMG MORI やまと郡山城ホール
大和郡山市北郡山町211番地3

大和郡山市

相手のことを思いやる、それが人権を考えること。

令和3年
新成人に贈る人権メッセージ

毎月11日は「人権を確かめあう日」です。

大和郡山市役所
人権施策推進課

〒639-1198 大和郡山市北郡山町248-4
TEL.0743-53-1558
FAX.0743-53-1211
<https://www.city.yamatokoriyama.nara.jp/>

Human rights message to a new adult



市長からの
メッセージ

正しく知り、
正しく怖れよ

大和郡山市長
上田 清

新成人のみなさん、おめでとうございます!!一人ひとりがかけがえのない人生です。お互い力を合わせて前へ!頑張りましょう!

ところで、今からおよそ20年前、鎌倉時代の初めに郡山の現白土町で生まれた観尊は修行者の生活規律「戒律」を整えたり、荒廃していた南都西大寺を復興する一方、弟子の忍性らとともにらい病患者の救済に力を注ぎました。

忍性が般若寺の近くに開いた北山十八間戸はらい病などの重病者を保護・救済する施設で、長さ約38m、幅約4mの棟割長屋は国の史跡に指定されています。

人類の歴史上、最も古くから知られていた病気のひとつらしい病は、1873年らい菌を発見した医師の名前をとり、ハンセン病と呼ばれるようになりましたが、感染力は非常に弱く今は治療法も確立し、完治する病気です。

しかし明治以降は諸外国の影響もあり、患者を療養所などに収容し一般社会から隔離する政策がとられたため、感染力が強いという誤った見方による偏見や差別が広がったと考えられています。

戦後になっても状況は変わらず、1953(昭和28)年の「らい予防法」成立後も、結婚や就職など、患者だけでなく家族に対する偏見や差別は一向になくなることはありませんでした。

その法律が廃止されたのは1996(平成8)年、みなさんが生まれる少し前のことなのです。

病気に対する偏見や患者に対する差別、決してあってはならないことです。

コロナ禍の今、正しく知り、正しく怖れることの意味を今一度考えてみようではありませんか。



新成人からの
メッセージ

「決断」できる大人に

佐村木陽太
郡山中学校出身

新成人の皆様、初めまして!今日から私達は、正式に大人の仲間入りです。とはいっても、今日から生活がガラッと変わることはおそくないでしょうし、私自身、まだまだ子ども、という感じも抜けきれません。しかしながら、やはり今日から気持ち新たに生きていく、という方も多いのではないのでしょうか。

大人になる、ということはどういうことでしょうか?たばこを吸ったり、お酒を飲んだり、ということかもしれません。社会に出て働いて自分の力で生きていく、ということかもしれません。結婚して、自分の家庭を持つということかもしれません。明確に、これをするから大人、という訳ではないと思います。ですが、一つ私が思うのは、「自由」になるということだと思います。

今までは、親や先生にお世話になりながら、あれをしなさい、これはしてはいけません、と言ったように、自分の意思で行動できなかったことも多かったと思いますが、これからは自分が全てを決断して、自分がその決断に対して、責任を負わなければならない場面が多くなっていくでしょう。ただ、責任を負うことに対してネガティブになる必要はないと思います。新型コロナウイルスの影響で、多くのイレギュラーな状況が生まれました。こういう状況で、誰かからの指示を待つのではなく、自分で考え、決断できる力が必要とされています。その力は、これからもきっと必要とされると思います。

今まで同じ道を歩んできた仲間たちと共に、これからは新たな日本を担う新成人として、羽ばたいていきましょう。



新成人からの
メッセージ

社会の一員として

橋本奈央子
郡山南中学校出身

成人を迎えるにあたり、この20年間を振り返ってみると、沢山の人の支えられてばかりの20年だったと思います。私は今年、大きな決断をしました。それは、中学生から大学二回生になるまで続けてきた部活動を辞める、という決断でした。

去年まで、私は部活動を理由に勉強を疎かにしていました。資格を取得したり、もう少し時間に余裕を持ちながら勉強をしたいと思っていた私は、部活動ばかりに力を入れていることに危機感を覚えはじめ、両立ではなく、部活動をやめるという選択をしました。いつでも私を応援し、支え続けてくれた家族には申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、私の決断を家族は受け入れ、私のやりたいことや挑戦したいという気持ちを尊重し、応援してくれました。

何をするにしても、周りの人たちの支えなしではここまで成長することはできませんでした。成人となり社会の一員となった今、私たちにできることは、「責任」を持ち、今まで支えてくれた方々への恩返しをしていくことなのではないのでしょうか。

私は新成人として、周りに支えられてばかりではなく、社会の一員としての責任を持ち、人を支えられる大人になれるよう努めていきたいと思っています。そして、学生という自覚を持ち、勉学にもしっかりと励んでいきたいと思っています。

〈令和3年 新成人の集い「成人式」新成人スタッフ〉



人生はアツという間

第8回水木十五堂賞受賞者
講師 四代目

旭堂南陵

メッセージ

成人式おめでとうございます。あなた方は今青春真っ盛り。周囲の大人から「前途洋々やね」「若さがうらやましい。頑張ってください」と励まされていることでしょう。

71才になる私も成人式の時に、そう言った励ましを受けました。しかし、71才になって人生を振り返ると「アツ」という間でした。油断していると、あの時もって頑張っていたらよかったということになりかねません。後から振り返って「悔い」を残してしまうことは一度きりの人生をつまらなくしているのです。「アア、あの時ももう少し努力していたらなあ」という言葉を、同窓会でよく聞きます。

ではどうしたら「悔い」が残らないのか、今の内に「やりたいこと」を見つけることです。そのやりたいことをやっている内に、自分に喜びと生きがいを与えてくれます。しかし、そのことがやがて他人を喜ばせることに自然自然となっていきます。最初から他人の役に立ちたいなんて考えなくていいんです。「やりたいこと」をやっているうちに、他人の役に立つのです。私がいちたいた水木十五堂賞の水木十五堂さんも、最初は自分の趣味で色々なものを集めはじめたことなのでしょう。しかしそれが積み重なると貴重な文化財となりました。さあ「やりたいこと」を見つけましょう。気負うことなく、ゆったりとね!!

四代目 旭堂南陵氏は、近代文学に大きな影響を与えたにもかかわらず、埋もれてしまっていた講談の速記本を約50年かけて蒐集され、解説本の出版やその研究によって博士号を取得され、大阪芸術大学の客員教授も務められるなど、幅広い活躍及び研究が高く評価されています。

